

基礎から学ぶ心不全の話 ～デタミナーLX NT-proBNPのご紹介～

◎高木 潤一¹⁾

キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社 CR 推進部学術 G¹⁾

【はじめに】心不全は高齢化の進展に伴い患者数の増加がみられ、日本における重要な医療課題の一つとされています。多様な心疾患を背景に発症し、再入院を繰り返しながら進行する慢性疾患であり、予後不良であることも知られています。そのため、早期の段階で病態を把握し、適切な対応につなげることが求められます。近年では診療アプローチも変化しており、従来の症状出現後の対応に加えて、無症候段階からのリスク評価や早期介入の重要性が示唆されています。

【BNP および NT-proBNP の意義】BNP および NT-proBNP は、心負荷を反映するバイオマーカーとして日常診療で広く用いられ、心不全診療において一定の役割を担います。また、NT-proBNP は採血後の検体安定性に優れることが報告されており、検体取り扱いの面でも臨床で扱いやすい特性を有します。さらに、経時的な変化の指標としても用いられ、病態把握や治療経過の確認に活用されています。

【日常検査における活用】無症候段階からの評価を臨床現場で継続的に実施するためには、検査の運用性や迅速性も重要な視点です。従来、NT-proBNP の測定は専用装置を用いる方法が主流であり、専用装置を有さない医療機関では外部委託検査による測定が行われていました。キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社が開発した NT-proBNP 測定キット「デタミナーLX NT-proBNP」は、生化学汎用自動分析装置での測定に対応しているため、診断や治療開始の迅速化への寄与が期待されます。本セミナーでは、本測定系の原理および基礎的性能について報告します。

【まとめ】心不全は早期発見および早期介入の重要性が示唆されている疾患であり、無症候段階からの評価の意義も指摘されています。BNP および NT-proBNP は、その評価に有用な指標として広く活用されています。「デタミナーLX NT-proBNP」は日常検査の中で運用可能な測定系であり、検査の運用性の観点からも心不全診療における早期評価の一助となることが期待されます。本セミナーを通じて、心不全診

療における評価の在り方について理解を深める機会となれば幸いです。

◆参考文献

厚生労働省：令和6年（2024）人口動態統計月報年計（概数）の概況

日本循環器学会／日本心不全学会：2025年改訂版 心不全診療ガイドライン

日本心不全学会：心不全予防に関するステートメント 2026

◆製品に関するお問い合わせ

キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社
CR 推進部学術 G

TEL:03-6219-7606 FAX:03-6219-7614